

日本バイオインフォマティクス学会第 12 回評議員会議事録

日 時：平成 17 年 3 月 25 日(金) 15:00~17:00

場 所：東京ステーションホテル 松の間

出席者：宮野(会長・評議員・幹事)、江口(副会長・評議員・幹事)、金久、松野、蓑島、中井、輪湖(評議員・幹事)、青島、有田、古谷、五斗、小森、馬見塚、永井、西川哲夫、榊原、田中、藤(評議員)、佐藤、渋谷(幹事)、鈴木(議事録)

委任状：森本、森下、西川建、清水、白井、高木、高辻、富田(評議員)

会議に入る前に、新旧評議員の自己紹介および挨拶があった。

評議委員会の成立には評議委員総数 30 名のうち過半数の出席が必要であるが、26 名の出席（委任状を含む）をもって本評議員会は成立することが確認された。

会長、事務局より報告事項があった。

1. 平成 16 年度年会報告(GIW2004)ポスター&ソフトデモ

本年度は、平成 16 年 12 月 13 日~15 日パシフィコ横浜にて行ない、556 名の参加者があった。ポスター185 件、ソフトデモ 14 件、29 件(総投稿数 64)の採択論文がそれぞれ発表された。招待講演は Alessandro Sette,, Ron Shamir, 金子邦彦の三氏であった。

2. バイオインフォマティクス時点編纂事業の進捗状況

中井担当幹事より、報告があった。

まずは、執筆にご協力頂いている会員及び役員に感謝を申し述べたい。諸事情により、当初の予定を大幅に遅れ、現時点では平成 17 年 9 月末に刊行を予定している。509 項目、約 500 ページ、執筆者は 200 名弱となっている。

3. 研究会の活動報告及び新研究会の発足

オントロジー研究会主査の五斗評議員より報告があった。

副査は CBRC の福田賢一郎氏にお願いした。他学会等の研究会との協力を視野に入れている。現在、具体的な研究会の予定は立っていない。

システムバイオロジー研究会、生物情報ネットワーク研究会、創薬インフォマティクス研究会の本年度の研究会の報告があった。

第 7 回システムバイオロジー研究会は 6 月 3 日那覇にて開催の予定である。(松野)

4. 平成 16 年度バイオインフォマティクス夏の学校報告

佐藤担当幹事より報告があった。

本年度で二度目となる夏の学校を、7 月 21 日~23 日に輪島にて開催した。66 名の一般参加者があった。参加者へのアンケートによれば、アクセスが非常に悪いとの意見も一部あったが、その他は概ね良い反応で、盛会であった。もう少し参加者を集めたかった。

5. 平成 17 年度バイオインフォマティクス夏の学校準備状況

本年度は、九州大学の丸山修氏に幹事を依頼している。現時点での決定事項は次の通りである。8 月 1 日午後~3 日午前、九州大学西新プラザにて開催予定。宿泊施設は近隣のハイアットレジデンシャルスイート福岡。参加費は、二泊二朝食一昼食一夕食込みで一人当たり 2 万円を予定している。新しい趣向として、ポスターセッションの開催が可能かどうか検討中である。

6. 平成 16 年度ニュースレターの発行報告

松野担当幹事より報告があった。

本年度は9月にVol.9、3月にVol.10を発行した。いずれも賛助会員からのメッセージを特集としたが、次回は新しい特集を組む予定である。

7. 第1回JBICバイオインフォマティクス技術者認定事業報告

2004年10月第1回の認定試験が行なわれ、総受験者数300名のうち194名が認定を受けた。高い合格率は、受験者のレベルの高さを示している。学会員には委員への就任と出題に協力を頂いた。JBICより、来年度も継続したい旨申し入れがあったので、進めることとしたい。(宮野)
企業、学部生、大学院生が主な受験者であったが、企業からの受験者の合格率が非常に高かった。企業内のクオリフィケーションに使えるためである。(江口)
認定試験のための教科書作成や講習会の開催は、学会に利益をもたらす事業となり得る。(田中)

8. 日本学術会議会員候補者の推薦

昨年末、日本学術会議より会員候補者の推薦の依頼があったので、金久實、宮野悟、久原哲、諏訪牧子、阿久津達也の5名を学会として推薦した。

9. AASBi 第2回シンポジウム及び今後の体制

Association of Asian Societies for Bioinformatics (AASBi) は第2回シンポジウムをソウルにて開催した。当学会からは、阿久津達也氏、中井謙太幹事、宮野が参加した。本年度は韓国のHong Gil Nam氏が会長となっている。今年は9月にBioinfo2005として釜山にて開催予定。(宮野)

10. 新ホームページのオープン

新学会ホームページの構成はほぼ完成している。東大医科研でのサーバの準備が整い次第移行する。(松野)

11. メーリングリストの活用状況

正会員からの情報送信依頼がほとんどを占める。内容は、会議のお知らせが主。賛助会員からの広告はこれまで一件ほど。情報送信に関して受信側からのクレームは一件もなく、うまく機能している。(宮野)

12. Genome Informatics 出版事業報告

Genome Informatics Series Vol.15, No.1 として The 4th International Workshop on Bioinformatics and Systems Biology の採択論文を掲載し、出版した。同No.2はGIW2004の論文集として出版した。また、No.1に関しては、既にHTML化が終了している。No.2のHTML化は現在作業中である。(宮野)

13. ホームページサーバ及び会員情報システムの移行状況

平成17年4月中旬を目処に、学会のサーバを京都大学化学研究所より東京大学医科学研究所に移行する予定である。(宮野)

14. 学会案内の作成

正会員向けの案内はA4版1枚の素案は完成している。賛助会員のものは準備できていない。賛助会員のメリットとしてどういう内容を盛り込むべきか企業からの意見を聞きたい。(宮野)
ホームページ上にバナー広告をリンクする等の広告宣伝は有効だろう。また、人脈を広げたいので、交流の機会がもっと増えると良いと思う。(小森)
研究会が交流の場となり得る。できるだけ多くそのような場を設けるようにしてはどうか。(江口)
GIWでの出展料の割引は有効である。また、研究会等で新製品のパンフレットを配布したり、学

会誌への広告掲載、バナー広告などの機会を企業は必要としているのではないか。(青島)
賛助会員のメリットについて、詳細の決定は次期執行部に申し送る。(宮野)

15. バイオインフォマティクスカリキュラムの改訂

本事業は金久評議員に検討を依頼している。(宮野)

[議題]

1. 平成 16 年度収支中間報告

事務局より、会計の中間報告があった。

本年度は夏の学校の支出が大きかった。講師への謝金と交通費が大きかった。(宮野)

2. 平成 17 年度年会及び GIW2005 について

来年度は、平成 17 年 12 月 19 日～21 日の三日間パシフィコ横浜にて開催する予定である。(宮野)

3. 平成 17 年度の継続事業及び新規事業ならびに関連する事項について

研究会等の謝金の支払い規定を作成する必要があるので、次期執行部に申し送りたい。(宮野)

日本学術会議より、学会の倫理規定の有無についてアンケートがあった。検討の余地があるかどうかも含め、次期執行部に申し送りたい。(宮野)

プライバシーポリシーは既に作成したが、個人情報の取り扱いを更に厳重にするためにも新たな規定の必要があるかもしれない。この件についても次期執行部に申し送る。(宮野)

メーリングリストでの送信メールに、「受信希望者にのみ送信している」との断り書きを添えるべきだ。(菘島)

各研究会の活動内容を評価すべきではないか。開催報告の内容についても、参加費収入や人数等の詳細も報告する必要があるのではないか。(有田)

評議員会において、研究会の活動について、詳細まで報告するようにしてはどうか。(江口)

学会協賛事業としてバイオインフォマティクス春の学校について報告しておきたい。春の学校は、ゲノム情報科学研究教育機構の主催する、学部生・修士の学生を対象としたバイオインフォマティクスの啓蒙活動で、今年で 3 回目になる。今年は広島大学、立教大学、北海道大学の協力を得て開催した。いずれの会場とも 100 名から 200 名の参加者を集めて盛況で、参加学生からの評価は概ね高いが、一方で企業関係者や博士課程の学生からの評価は分かれる。来年度は福岡、京都、金沢で開催予定である。(藤)

4. 平成 17 年度会長選挙

平成 17 年度評議員による会長選挙を行なう。投票に先立ち、宮野会長、菘島評議員、白井評議員より江口至洋副会長が推薦された。

開票結果 : 江口至洋 12 票

金久 實 1 票

(有効投票総数 13 票)

開票の結果、江口至洋氏が就任することとなった。

宮野会長より、退任の挨拶の後、江口新会長より就任の挨拶があった。

以上を以って、第 12 回評議員会を閉会する。

以上。